

告示	番号	47	内分泌疾患
	疾病名	成長ホルモン（GH）分泌不全性低身長症（脳の器質的原因によるものを除く。）	

成長ホルモン（GH）分泌不全性低身長症（脳の器質的原因によるものを除く。）

せいちょうほ르몬ぶんびつふぜんせいていしんちょうしょう（のうのきしつてきげんいんによるものをのぞく。）

概念・定義

成長ホルモン分泌不全性低身長症(GHD)は GH 分泌不全による低身長症で、その他の下垂体ホルモン [TSH、ゴナドトロピン(LH,FSH)、ACTH あるいは ADH] の分泌不全を伴っていることもある(下垂体機能低下症)。

注：GHD の原因としては、器質的なものと特発性のものに分けられる。器質性 GHD には頭蓋咽頭腫、胚芽腫など脳の器質異常、骨盤位分娩・仮死・黄疸遷延などの周産期異常によって引き起こされ、頭部 MRI 検査で、下垂体茎離断、異所性後葉あるいは下垂体低形成をみとめる場合が含まれる。これらは成長ホルモン分泌不全性低身長症（脳の器質的原因による）に含まれる。

症状

GHD の病態は、成長率の低下であり、その結果低身長をきたす。重症型 GHD では、乳幼児期からの成長障害がみられ、低血糖などの症状を伴うことがある。本症では、乳幼児期の成長率は低く、3～4 歳時にはすでに -2SD を下回っていることが多い。それ以降も身長増加率が不十分なため、低身長が更に進行することが多い。

治療

GHD の治療は遺伝子組換え GH 薬の皮下注射 (0.175mg/kg/週) で、毎日あるいは週 6 回程度の注射が必要なため自宅での自己注射が認められている。短期的には身長増加を促進して、なるべく早く身長を正常化し、低身長に伴う心理社会的問題の解決を図り、長期的には成人身長の正常化を目標とする。そのためには比較的早期から治療を開始することが望ましい。GH だけでなく、他の欠乏しているホルモンの補償療法も必要な場合もある。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/5_4_6.html